

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 なごやか1 )

事業所番号	0673200333		
法人名	有限会社 ほほえみの里		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	山形県遊佐町江地字中屋敷田3-7		
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 5 日	開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は地域のほぼ中央に位置し、隣あった畑から、野菜の差し入れがあったり、散歩時には、ご近所の庭先で一杯のお茶をご馳走になったりと、常に地域と密着した、心豊かな暮らしが送られるようになっている。食事メニューもシェフである職員が心を込めたおいしい料理を提供してくれ、皆さんに喜ばれている。代表が看護師である事と施設の隣に自宅がある事により、利用者にとっては、精神面や健康面でも安心して生活できる要因となっている。日中の暮らしは居室に閉じこもる事無く、リビングでみんなで仲良く過ごしており、家庭生活のようにゆったり、楽しい雰囲気である。

## 【外部評価で確認した事業所のすぐれている点、工夫点(評価機関記入)】

庄内地方の豊かな自然に囲まれ、日常的に地域の一員として交流し、その役割も担っており、地域から事業所に対する援助、協力を得るだけでなく、地域に貢献している事業所である。また、事業所運営やケア技術、心構え等優先課題を自ら検討しながら、法人代表者、管理者を中心に、更なるサービスの質の向上のため、前向きに取り組んでいる。「ゆっくり たのしく なごやかに」をモットーに、利用者たちは各々つるぎながらゆっくりのんびりと過ごし、ホーム内の会話は楽しく笑顔も溢れ、利用者職員は家族のようになごやかに生活している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21 年 9 月 8 日	評価結果決定日	平成 21 年 10 月 8 日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく生活できる事を理念に掲げ、いつも目の届く所に明示する事で職員全員がその理念を共有し実現に向けて取り組んでいる。	住み慣れた地域で、その人らしく生活できることを理念に掲げ、見やすいところに掲示するとともに、会議、ミーティングの際に繰り返し話し合い、意識づけ、日頃のケアで実践できるように心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	住み慣れた地域で、これまで通りの繋がりを維持しながら生活できるよう、毎日の挨拶だけでなく、旬の作物の差し入れや地区の行事への参加を行い交流を図るようにしている。	町内会に加入し、日頃から地域住民との挨拶や声掛け、お宮の掃除等地域の一人としての役割を担っている。また、敬老会等の行事参加、ボランティアや近隣の小学生の来訪等地域との交流を積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を得る為に、近隣の住民の方々を始め、ボランティアや施設訪問で来られた方々へ、支援の方法等の説明を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数こそ不足ではあるが、遊佐町役場職員や家族・地域の方々に参加して頂き、施設内での現状や意見交換を行いサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回の開催を目指し、家族、包括支援センター、町担当者、地域代表者等に対して積極的に参加を働きかけている。また、運営状況の報告や改善課題を話し合い、多くの意見や助言を得て、その後の職員会議で検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	遊佐町役場の担当者へは、利用者様の状態の変化や事業所内の取り組みなどを随時伝え、情報を共有する事でよい関係を築いている。	要介護認定更新の機会や、おむつ支給等の福祉制度の活用時に、利用者の状況や事業所の取組状況を伝えるとともに、改善課題等の相談をしながら、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	勉強会を開き、職員全員が身体拘束について理解し、さらに拘束をしない介護の実践に向けて、職員間で十分に意見交換と話し合いを行い実行している。	入職時研修をはじめ、随時、身体拘束排除のための研修を行い、その弊害を理解している。また、日中の玄関は施錠せず、利用者の外出傾向の把握、さりげない見守りを徹底することにより、安全を確保しながら、自由な暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者による勉強会や外部での研修事例を参考にし、それぞれが虐待防止に努め、お互いに声を掛け合う事で見過ごされる事がないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度そのものの勉強会は行っているが、実際必要とするケースに立ち会った事例がなく、深い理解にまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や改定時の変更内容について、十分理解を得られるよう随時丁寧な説明を行い、疑問や不安な点についても分かりやすく安心できるような説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開き、利用者様とその御家族の要望を職員並びに外部へと表現できる機会を設けており、又、常日頃から御家族との意見交換を行い、それらを運営に反映するよう努力している。	家族面会時を利用して、家族と職員が共にお茶を飲みながら、リラックスした雰囲気作りをし、自由に意見や要望を出してもらえよう心掛けている。また、外部の相談苦情受付機関のパンフレットを玄関に備え付けている。	
11		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は会議の時だけでなく、随時職員が相談や意見を提案できるような雰囲気作りに配慮しており、迅速に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の個々の労働実績や努力を認め、それに応じた評価と処遇を行っている、又、資格取得についても積極的に挑戦できるよう環境を整え配慮されている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修があれば、職員間で偏りのないよう希望者を募り参加できるようになっている。また研修の内容が現場に活かせるよう報告会や資料の回覧を実施し情報の共有を図っている。	新任者に対し、管理者を中心にOJTを行っている。また、内部研修を計画的に実施し、職員のスキルに応じて外部研修へ参加させるとともに、外部研修出席者による伝達研修や報告書の回覧を行い、知識や情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	入所部会や同業者主催の研修会へ参加し、相互の実状や情報の交換を行う場となっている	GH協会主催の研修会等に参加したり、回数が僅かであるが、他事業所との相互訪問を行っている。また、次なるステップとして、県社協主催の小規模事業所スクラムチャレンジ2009に参加することで、他事業所との交流機会の確保を目指している。	小規模事業所スクラムチャレンジ2009を通じて、他事業所との交流を深め、情報交換や相互訪問等を行いながら、更なるサービスの質の向上に向けて取り組んでいく事を期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心感を持って頂けるよう、温かい雰囲気作りに配慮し、個々に担当者を配置、訴えや要望を十分に傾聴し実行へと繋げて行く事で信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する時点で入居者様と共に、御家族様の声にも十分に耳を傾け、不安や要望について綿密な話合いと説明を行い、安心できるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の気持ちと御家族の気持ちを十分に踏まえた上で、今何が必要なのかを見極め、担当ケアマネージャとの話合いを持ち、本人の意向に沿ったサービス利用ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごし、洗濯たたみや皿拭き、ならわしや習慣・歌など、互いに出来ない所・分からない所を支え、教え合える関係を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や要望を御家族様と共に理解し、その実現に向けて情報交換と協力をし合う事で、本人と御家族様の絆を維持し、共に支える関係を築くよう努力している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御友人の訪問時には、水入らずでくつろげる環境を整えており、又、御家族の協力の元、馴染みの御友人に挨拶まわりに出かけられるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで過ごされる方が多く、皆が楽しめるレクを提案したり、気の合ったもの同士が楽しく会話をしたり助け合ったりしており、よい雰囲気でも過ごされている			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了となっても御家族様からの相談があれば親身に応じ、その後のサービスについて御家族様の思いを汲み取り支えになって行けるように努力している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から表情や声掛け、訴えの内容を傾聴し本人の要望をプランへ反映できるよう思いを汲み取る努力をしている。	担当職員制を採用し、より馴染みの関係を活かしながら、日々の関わりの中で、言葉や表情、しぐさから思いや意向を把握している。把握が困難な利用者については、家族やその他関係者からの意見や情報を参考にして、本人の立場で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	提供された情報書類だけでなく御家族様や本人、御友人からもお話を伺い、個々の生活歴を知る努力をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方を観察し、本人の性格、気質、できる力を見極め、職員全員で利用者様の現状を把握し支えて行く事に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人の要望・御家族の思いを汲み取る努力をしており、要望や身体的・精神的な変化があった際には職員全員で話し合い、迅速にプランの見直しを行っている。	6ヶ月に1回モニタリングを実施し、本人、家族の意向や意見を踏まえ、担当職員を中心にプランの見直し、評価会議を行い、本人の思いを反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に工夫や気づいた点は特記事項を記す用紙を用い、職員間の意識の共有を図り、介護計画にも活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な三味線ボランティアの訪問や近隣の方からの菊の鉢花の差し入れや近くの小学校との交流もあり、入居者様が心豊かに暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切にし個別の希望に応じてかかりつけ医の適切な医療が受けられるようになっている	本人及び家族の希望を重視し、かかりつけ医と事業所との関係を築きながら継続的な受診支援をしている。職員が受診支援した際は、日々のバイタルや生活状況を医師に報告し、家族が受診付添いした場合にも家族、医師、事業所間で情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいた点や特変がある時には代表者が看護師である為、迅速な指示や処置、受診が行えるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供を綿密に行い家族の心理的負担を軽減する為、サポートを行っている、また病状安定の場合には、退院後の受け入れに関して、可能な限りで対応できるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、本人の意向を尊重し、その旨を主治医へも伝え協力体制をとるようにしている、又、代表者である看護師がご家族様の希望を確認し、段階的に説明を行う事で信頼関係を深め、終末に向けての支援の方針を全員が理解し一丸となって取り組んで行くよう努めている。	利用開始時に、事業所として対応し得ることを説明した上で、本人や家族の意向を把握している。また、医師等との連携を図りながら、状態の変化に応じて、話し合いを繰り返しながら、対応方針を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、学習会を行い詳しい事例をあげて応急処置や急変時の対応について学んでいる、又、マニュアルも作成されており全職員に対し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定して緊急連絡網の伝達訓練や避難訓練を実施しており、近所や他施設の応援要請も取りつけている、しかし、夜間の訓練はまだ実施には至っておらず今後実施していく予定である。	消防署の協力を得て、年2回程度、防災訓練を行っているが、夜間を想定した訓練については計画段階である。また、運営推進会議等で災害時の協力依頼をしているものの、共に訓練を行う等実践的な取り組みまでは至っていない。	災害は昼夜を通じて、いつ起こるか分からないため、夜間を想定した訓練を行うとともに、地域住民の参加、協力を得ながら、より実践的に訓練していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとり一人が入居者様の立場に立って、その誇りとプライバシーを守るよう、声掛けや対応に注意して支援している。	利用者の人格を尊重し、尊敬の念をもって支援することを理念に掲げ、その重要性が周知徹底されている。職員は、常に本人本位に考え、声掛けやケアの工夫を意識的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を表現できるよう分かりやすい声掛けを工夫し、言葉だけでなくその表情や全身反応を細かくキャッチする事で思いを汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程は決まっているものの、本人の希望や体調を考慮し個々に対し柔軟な対応を支援しており、手紙を書いたり休息したりと思いつきの時間を過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の時には、数ある洋服の中から好みの物を選んで頂いたり、髪飾りを使って髪のアレンジを楽しんだり、それぞれが思い思いのおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みのメニューを取り入れ、食事形態も食べやすい工夫をこらし提供している、又、盛り付けやお皿拭きなども入居者様と共に楽しく実施している。	利用者の希望や状態を考慮しながら、シェフの経歴がある職員が中心になって調理し、食事を提供している。盛り付け、配膳、皿拭き等食事に関する一連の流れを職員と利用者が一緒に行い、同じ食卓を囲んで、食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の水分量や摂取量を記載し、不足気味の場合には粉ミルク等の補助食品を使用し、本人の好みを取り入れてバランスのよい食事摂取を支援している、又、嚥下機能の低下が見られる方にはゼリーやトロメリンを使用し対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを実施し、不足な点は介助を行い口腔内清潔に努めている。義歯の使用者には就寝時に入れ歯洗浄剤を使用し消毒も行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄リズムを知り、出来る限り失敗のないよう声掛けと誘導を実施している、又、身体機能も考慮しポータブルトイレの設置など環境的な工夫も行っている	排泄チェック表を用いて、排泄のリズムやパターンを把握し、利用者に応じたタイミングでトイレ誘導を行っている。また、本人の能力をできる限り活かすため、一人でできるような見守りを重視するケースもあり、利用者の身体機能に応じたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品の摂取を促したり、水分を多めに摂りリズム体操で腸の働きを良くし、便秘の予防となるよう取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意思と体調を考慮し、希望時に随時入浴できるように支援している又入浴が楽しみの一つとなるよう気持ち良くゆったりと入って頂き一人ひとりの希望に応じた足浴やシャワー浴等の対応を実施している。	本人の習慣や希望を把握し、時間帯の変更、シャワー浴や足浴等臨機応変に支援している。入浴を拒む場合には、しばらく時間をおいてから再度、声掛けする等工夫している。また、利用者と職員が歌や民謡と一緒に歌いながら入浴を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、快適な睡眠と休息がとれるよう、就寝時間の考慮や過ごしやす環境と明かりの調整を行い安眠の支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供表に目を通し、一人ひとりの服薬している薬を理解し、変更時には全員が確認できるよう申し送りノートを活用し、情報の共有を図っている、又、服薬介助時にはお互いに声掛けを行い、誤薬のないよう十分に注意している			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で皿拭きや洗濯たみ、配膳等の役割を持って頂いている。又、レクに際しては、歌や体操・楽器を取り入れ入居者様それぞれが楽しくハリのある生活ができるよう工夫を凝らし支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には土日を利用して部落内の散歩を支援すると共に、花見やドライブといった外部への外出も行っている。また、御家族様の協力を得て自宅等への外出ができるように積極的に取り組んでいる。	近隣への散歩、馴染みのある美容室や商店への買物等日常的に外出の支援をしている。また、家族の協力を得て、一時的な実家への帰宅を働きかけるとともに、実家付近の友人宅への訪問を促している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心感を得られるように少額ではあるがお金を持って頂いている。また、本人の希望で自由にお金が使えるよう職員も協力して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い、依頼があればその都度手紙のあて名書きや代筆・投かんを介助したり、御家族様との電話での交流ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓がある為、明るく開放的な空間となっており、自然と入居者様方が集まる居心地の良いスペースとなっている。また季節感が感じられる置物を飾ったり、過ごしやすい温度や照明の明るさにも気を配り過ごしやすい環境を整えている。	共用フロアには、心地よい自然光やさわやかな風が入り込み、その壁面には季節感あふれる飾付けがなされている。ゆったりしたソファも配置されており、自宅の延長として居心地の良い空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、大小のソファから一人掛けの座イスまで用意されており、その組み合わせに応じて、一人及び二～三人の居場所を作れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から衣装箆笥や写真、布団など使い慣れた物を持参してもらっているが、家具の持ち込みをされる御家族様は少なく、施設の物を提供している場合もある。本人と御家族様を交え、居心地の良い空間を作れるよう支援している	利用者が安心して過ごせる工夫として、使い慣れた馴染みの品々を持ち込んでもらえるよう、家族等に対して働きかけており、家族写真、寝具、趣味であるジグソーパズル等が実際に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる力を引き出せるよう、自室には表札や飾りを掛け、トイレや風呂場には看板やのれんを設置し目印となるよう工夫を凝らしている。また、個々に応じて滑り止め靴下の使用や移乗バーの設置を行い自立した生活ができるよう支援している。		